

本学習指導案は、中学校のものを掲載しておりますが、クラスの実態に応じて小学校、高等学校、特別支援学校においても活用してください。

◆学習のねらい	対立（友達とのいさかやトラブル）を「友達との対立」ではなく、「友達との意見の対立」としてとらえ、その対処の仕方が大切であることを理解する。 対立している友達が、自分たちの力で解決策を見出せるよう支援するためのスキルを学ぶ。
◆教育課程への位置づけ	特別活動、総合的な学習の時間

《展開例》

	学習活動・内容	指導上の留意点等
導入 (5分)	1 本時の題材を知る。 「友達同士のトラブルの解消について考えよう」	<ul style="list-style-type: none"> <li>次のような質問をして、挙手で答えさせる。 「学校生活での友達関係は大切だと思う」 「学校生活は、楽しいだけではなく、嫌なこと、つらいこともある」 「学校生活では、友達とけんかしたり口論したりすることもある」</li> <li>多くの人が体験している「対立」について考え、対立している友達同士が和解できるようにサポートする方法を学ぶことを伝える。</li> </ul>
展開 (40分)	2 学校生活のなかで、どんな対立やいさかいが生じるか考える。  3 「対立とは何か」について学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシートに自分の考えを記入させる。</li> <li>考えた対立の例をグループで話し合い、出された内容を発表させる。</li> <li>次のことについて説明する。 ※対立が起きることは自然なことで、対立をどのように対処するかが大切である。 ※対立は、「友達との対立」ではなく「意見の対立」であり、意見を調整することが大切である。 ※友達とは対立していない方が楽しく、素直な気持ちでいられる。しかし、対立は、他の人の考え方を知り、対応の仕方を学ぶチャンスである。 ※一方的な主張や勝ち・負けにこだわるのではなく、話し合っ折り返合うことが大切である。</li> </ul>
	4 「対立」を解消するための方法を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート「対立を解消するためのルール」を用いて、対立の解消方法について説明する。</li> </ul>
	5 「対立の仲裁」の方法について理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート「友達（サポーター）として関わる時の役割」を用いて、友達（サポーター）として関わる時の役割について説明する。</li> </ul>
	6 「対立の仲裁」のロールプレイを行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>対立している2名、友達（サポーター）の役を決めるよう指示する。</li> <li>どんなことで対立しているのか話し合っ決めさせる。</li> <li>「対立を解消するためのルール」「友達（サポーター）として関わる時の役割」に沿ってロールプレイを行わせる。</li> <li>終了したら、それぞれが感じたことや気づいたことを出し合うよう説明する。</li> </ul>

	7 全体で、感じたことや気づいたことを話し合う。	・ワークシートに自分の考えを記入し、全体で共有させる。
まとめ (5分)	8 授業者の話を聴き、本時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対立の仲裁は難しいが、まずは、対立の仲裁の考え方や流れで対処できるように心がけることから始めてみることを伝える。</li> <li>・対立が起きた時、相手の非を責めるのではなく、うまくいくために「今」と「これから」何ができるかが大切である。それぞれが異なる存在であることを認め合い、尊重し合うことが大切であることを伝える。</li> </ul>

ワークシート

**友達同士のトラブルの解消について考えよう**

1. 学校生活のなかで、友達との間で、どのような対立やいさかいが生じますか。その例を考えてみてください。

2. 「対立とは何か」考えてみましょう。

何が「対立」しているのですか？（ 人 ）が対立している⇒ **いらだつ、責める、逃げる**

（ 考え ）が対立している⇒ **話し合って考えを調整すればよい**

「対立」が、 起きることは自然なこと

「対立」は、 他の人の考え方を知り、対応の仕方を学ぶチャンス

3. 話し合って考えを調整する方法

○対立を解消するためのルール

**相手の話の聴き方**

- ①おだやかな話し方を心がける。
- ②お互いの話をちゃんと聞く。話の途中でさえぎらない。
- ③相手をバカにしたり、顔をしかめたりしない。

**自分の考えの言い方**

- ①お互いに、自分の言いたいことを言うことができる。
- ②自分が話し始める前に、相手の話を自分がどう理解しているか、言葉にして伝える。
- ③本当のことを言う。
- ④「どうしたらいいと思う？」など、一緒に解決策を考える。
- ⑤もし、ここで、この問題が解決できなければ、友達（サポーター）は先生に相談する。

○友達（サポーター）として関わる時の役割

**友達（サポーター）の観察ポイント**

- ①“お互いが、自分の言いたいことを言えているか”注意深く観察する。
- ②“相手が話しているとき、もう一方の人はちゃんと聴けているか”注意深く観察する。
- ③“相手の話を自分がどう理解しているか、言葉にして伝えることができてるか”注意深く観察する。

**友達（サポーター）のお助けポイント**

- ①「なにかよい解決策はある？」と尋ねる。
- ②「一番効果的だと思うものを選ぼう」と提案する。
- ③「ふたりとも、この解決法でいい？」と確認する。

※話し合いがうまく進まなくなったら、必ず一旦止めて、対立を解消するためのルールを再提示する。

4. 対立の仲裁のロールプレイを通して気づいたことを出し合ってみましょう。

5. 全体を通して感じたことや気づいたことを振り返ってみよう。

年 組 氏名

※ワークシートは、人権教育・児童生徒課のホームページからダウンロードできます。